



# サフラン便り

第43号 22年2月15日発行

発行: 佐賀県薬剤師会女性薬部会 佐賀市本庄町大字本庄 1269-1 TEL:0952-23-8931 FAX:0952-23-8941 <a href="http://www.sagayaku.or.jp/josei/index.html">http://www.sagayaku.or.jp/josei/index.html</a>
--

## <子宮頸がん予防ワクチン研修会のご案内>

日時: 2月23日(火) 19:30~21:00  
場所: 県立生涯学習センター「アバンセ」ホール  
内容

- < 学術講演 > 「子宮頸がん予防ワクチン サーバリックスDI 情報」  
グラクソ・スミスクライン(株) 佐賀営業所 池田友治先生  
< 特別講演 > 「子宮癌の予防と早期発見について - 子宮癌にまけないために」  
内山産婦人科 副院長 内山倫子先生



この研修会は、唯一予防できる子宮頸がんのワクチンの普及啓蒙活動として、開催いたします。薬剤師は、薬局窓口で、学校薬剤師としてその他いろんな手段で、一般の方に正しい知識を伝えていく機会が多くあります。また社会的にも求められています。是非ご参加お願いいたします。

子宮頸がんは性交渉時のヒトパピローマウイルス(HPV)が原因の一つであり、日本でも毎年約1万5千人の方が発症し、約3千500人の方がお亡くなりになっています。記憶に新しいですが、タレントMさんもこのがんが原因で代理出産をしてもらい、大きな話題を呼びました。(宮地)

「子宮頸がん予防ワクチンの接種と定期的に子宮頸がん検診を受診することで子宮頸がんはほぼ100%予防が可能といわれています。女性のがん予防はもちろんのこと、国のがん対策にも大きな貢献ができるものと期待しています。このワクチンは、女性の健やかな生活を守り、安心をお届けするワクチンであると信じています。今後、啓発活動などを通じて、できるだけ多くの女性に接種機会がもたらされるよう努力してまいります。」

生きる喜びを、もっと Do more, feel better, live longer グラクソ スミスクラインHPより

## <ちょっと一言(女性薬委員編)>

昨年は女性三師の会で医師、歯科医師の先生方と交流会がもてたことはとても良かったと思います。今年は薬剤師会担当で2回目の交流会を行う予定です。交流の輪が広がり、このめまぐるしく変わっていく薬業界の中で女性薬剤師の働きやすい環境作りのために少しでも役立てば...と思います。(佐賀市支部 田中須磨代)

5月から6年制薬学生の実務実習が始まります。薬局は“教育機関”でもあるという責務に真摯な態度で取り組もうと、支部で委員長を中心に実務実習研修会を行っています。

近い将来の薬剤師職能拡大に繋がる足場作りに貢献したいと思います。(鳥栖三養基支部 徳淵昭代)

最近、血圧の薬を飲み始めました。服薬指導する立場から、される側へ。毎日、毎回、忘れずに飲むということは大変です。自分の経験を生かし、患者様の立場になって指導できるように心掛けようと思っています。(鹿島藤津支部 池田知子)

今までは自分の薬局だけに閉じこもっていた私が九州山口薬学大会で大分へ、全国学術講演会で東京へ、日本女性薬剤師会九州ブロック研修会で熊本へなどいろいろ参加させて頂き、薬剤師としての視野を広げることができました。これからもさらなるスキルアップを目指していきたいと思います。(佐賀市支部 福島あさ子)

昨年は、九山大会での発表という貴重な経験をさせていただきました。このような経験を活かして、今年は、もっとステップアップできるように、前進していこうと思います。(多久小城支部 鶴田恵子)

歳とともに、フットワークは重くなる一方ですが、皆さまのじゃまにならぬようやっていきたいと思っています。

あせらず、気負わず、今まで通りマイペース。(唐津東松浦支部 杉岡祐子)



1月30日(土)31日(日)認定実務実習指導薬剤師ワークショップに参加し、薬学教育という難問に、学生を送り出す大学側受け入れる病院・薬局側双方が共に学習し、議論を重ねてまいりました。学生に、学習目標を設定し、これを達成する為にカリキュラム、方略、評価方法作成をする作業の中、指導薬剤師の責任の重さを痛感しました。この薬学教育プロジェクトに携わる事で、社会に貢献できる様、努力していきたいと思ひます。(武雄杵島支部 江口しずか)

心配性なうえ物忘れがひどいので、何でも早めにやるようにはしているのですが、考えていてもどうしようもない事が多いので、その時は「何とかなるさ」と開き直っています。今年もよろしくお願ひします。(神埼支部 宇野由紀子)

毎年、女性薬にも新しい課題が与えられます。試行錯誤しながらも、一つ一つ心を込めて取り組んでいきたいと思ひます。薬剤師として勉強する意味は、全て患者さんのためとの思いを込めて。(佐賀市支部 島田智子)

今年の目標は、あんまり頑張り過ぎない事にしました。つらい更年期の症状に負けそうなんです、仕事が好きだから細く長くやっつけていこうと思ひます。今年もよろしくお願ひいたします。(伊万里有田支部 古荘祐子)

昨年末ジョン・レノン没後30年で「Imagine」をよく耳にしました。「想像してごらん」というメッセージは不変のものかもしれませんが、患者さんの気持ちを想像する。割り振られた仕事を想像する。そこで思いやりや元気が出てきます。想像しようとして思い出そうとすることにだけはならないように脳を鍛えていきたいと思ひます。(部会長 宮地和子)

### <佐賀県女性薬剤師会の歴史>

### 会史投稿文より(その5)

元佐賀県薬剤師会 副会長 宮地信子

学校薬剤師としても、女性薬剤師の活躍が大きな力になっている。また、県女性薬の幹事の宮地信子は料理学校で栄養化学を講義しております。その他にも奥平県女性薬会長、山中副会長は佐賀高等理容・美容学校の講師として、初めは消毒学と物理化学だけでしたが、その後化粧品学、皮膚科学、伝染病、公衆衛生学と増え、宮地信子にも担当が割り振られました。これは女性薬の仕事として後輩に譲り伝えたいと思っております。(奥平、山中両氏が辞められた後は宮地信子と園部節子2名で平成14年まで頑張りました。)県薬剤師会内でも、会長、副会長、理事の交代若返りが行われ、特に武田資義会長は女性薬部会に対して大変理解が深く、県薬内でも女性薬の果たす役割は重要になり、副会長の席に女性薬も加えられ、理事、監査役、代議員にと女性薬剤師が起用されています。それに並行して女性薬部会費も少しずつ増加されて他の部会並みになりました。また、旅費も支給されるようになりました。

### <日本医療薬学学会 in 長崎 2009 報告>

10月24.25日に長崎で開催された日本医療薬学学会に参加しました。

2日目、午前午後を通して"FIP joint conference"が行われました。

テーマは pharmacogenomics (薬物動態に遺伝子を考慮してテーラーメイドの薬物治療を行うこと)、台湾から CYP3A4 の SNPs (single nucleotide polymorphisms) の解明。オーストラリアから、2020年には患者個人が遺伝子を記録したスマートカードを持ち、患者情報を共有する目標。日本の Dr.Rosuke Arakawa (東京大学)は PET を用いた抗ドーパミン薬や SSRI の脳内薬物濃度の測定と臨床応用の発表。「可能性がありますのでご注意ください」ではなく、「あなたの場合は・・・」といった個別確実な服薬指導に向けて貴重な内容でした。

今年の FIP (70th FIP World Congress of Pharmacy) は

8月28日~9月2日ポルトガルのリスボンで開催されます。

現場の FIP に参加したいと思ひています。いっしょにいきませんか? (徳測)

<http://www.fip.org/lisbon2010/>



### 平成21年度後期 追加募集!

日本女性薬剤師会 北里大学薬学部 「リカレント教育プログラム」成期

薬理学 病態評価学 生化学 ウイルス学 化学療法学 生物薬剤学

詳細は URL をご覧ください。 <http://www.jyoyaku.net/event/nichijyo/H21/05-07.html>

